

災害医学		講義	教授 千明 政好 講師 清家 洋	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13381401	

1. 授業のねらい・概要

災害医学・災害医療，中毒，放射線障害について理解を深める。また，災害対応の具体例を踏まえた今日的課題について考察を深める。

2. 授業の進め方

画像・動画を活用するほか，災害医学に関する討論や口頭発表を含むアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

<p>1. 災害医学総論 災害の定義と災害医療の目的</p> <p>2. 多数傷病者への対応 CSCATT, トリアージなど</p> <p>3. 災害医療に係る法規・体制 災害拠点病院, DMAT, EMIS など</p> <p>4. 災害時に問題となる合併症と治療 感染症, 呼吸器障害, 心筋症など</p> <p>5. 災害時に問題となる特異的な外傷と対応策 クラッシュ症候群など</p> <p>6. 惨事ストレス 災害を契機として現れる精神的・肉体的な影響とその対策</p> <p>7. 災害対応の実例 過去の災害の実例を踏まえた今日的課題</p>	<p>8. 確認試験① 第1回～7回までの内容のまとめと試験</p> <p>9. 中毒総論 一般的な中毒の概念と病態理解</p> <p>10. 中毒各論① 工業品中毒, ガス中毒 (消防活動含む)</p> <p>11. 中毒各論② 自然毒中毒, 魚介・山菜など自然毒による中毒</p> <p>12. 中毒各論③ 家庭用品中毒, 医薬品中毒, 農薬中毒</p> <p>13. 放射線障害総論 放射線の概要と人体への影響</p> <p>14. 放射線障害各論 放射線への対応, 観察と処置</p> <p>15. 確認試験② 第9回～14回までの内容のまとめと試験</p>
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の授業内容に該当するテキストのページを基に，週 90 分程度の準備学修（予習・復習，課題作成等）を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により，個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士として社会で活躍するために必要な災害医学分野の知識を習得する。また，当該分野における救急救命士国家試験に関する対策を進める。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢・提出課題（20%），確認試験の結果（80%）により成績評価を行う。

8. テキスト・参考文献

改訂第 10 版救急救命士標準テキスト，適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

3分の1以上を欠席した場合は不合格とする。また，確認試験①②において，合計得点率が60%未満は，翌週に別

問題（出題分野は同一）の試験を行い、その結果、前記の基準（合計得点率 60 以上）に達しない場合は不合格とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。